

第 36 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議概要

1 日 時

令和 6 年 4 月 27 日(土) 11:00~12:30

2 場 所

旧山口県漁業協同組合山口支店 2F (山口市秋穂二島 437)

3 主 催

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

4 出席者

38 名(委員 29 名、委員外 9 名)

5 内 容

(1) 第 11 期委員について(資料 1)

公募により新たに個人委員 1 名の応募、第 10 期委員のうち個人委員 1 名の辞任
(新規) 米川 浩史 氏
(辞任) 辻野 睦 氏

(2) 役員の選出について(資料 2)

ア 会長及び会長代理の選出

・会長に朝位孝二委員、会長代理に山本浩一委員が就任した。
※朝位会長欠席のため、以降、山本会長代理が進行。

イ 会長あいさつ(あいさつ文を山本会長代理が代読)

・今回から本協議会の会長を承った。所用により出席ができないことを深くお詫び
申し上げる。
・私の専門分野は水理学(水がどのように流れるのかを研究する古くからある学
問)である。
・1997 年 10 月に山口大学に赴任し、水理学の分野でも環境が重要視され始めた中
でこの協議会の存在を知り、関根前会長を通して参加し、現在に至っている。
・本日は、昨年度の活動報告と今年度の計画等について説明がある。
・また、総会後には、干潟再生活動が行われる。180 人あまりが参加される予定で
あり、コロナ前の活発な状況に戻ってきていると安堵している。
・活発な意見交換が行われることを期待するとともに盛会となることを祈念する。

(3) 2023 年度の活動について

ア 2023 年度活動報告(資料 3-1: 事務局)

・No. 20 ニュースレターにより、各種活動の再開や環境省の行うブルーカーボン機
能把握調査の対象海域に榎野川河口・山口湾が選定されたこと等を説明した。

【意見交換・質疑】

(委員) クロツラヘラサギは何羽程度飛来しているのか。また、増加しているのか。
→ NPO 法人野鳥やまぐちの調査によると、36 羽程度が飛来していると聞いて
いる。飛来数は、若干増えているとのことである。
※協議会后改めて確認したところ、最大 40 羽の飛来があったとのこと。

(委員) 南潟でもごみが多い印象。海岸清掃のエリアについて検討できると良い。

イ 2023 年度ふしの干潟いきもの募金について(資料 3-2: 事務局)

・収入としては、各所設置の募金収入のほか、講演やイベント等での募金の呼び
かけ、企業からの寄附があった。
・支出としては、干潟再生活動、カブトガニ幼生生息調査・観察会、被覆網購
入費及び事務費があった。

【意見交換・質疑】

(委員) カブトガニ幼生生息調査の結果について、個体数の減少が見られるが、何か理由がわかるか。

- カブトガニ WG の原田グループリーダーによると、大きな原因は護岸工事等によりカブトガニの産卵場所や生息域が奪われること、さらに、底質や起伏、滞筋等、地形や環境の変化も影響すると考えられるとのことで、砂の堆積や滞筋の変化等が見られる山口湾もこの影響が考えられる。

(4) 2024 年度の活動について

ア 2024 年度年間計画について (資料 4-1: 事務局)

- ・年間スケジュールを説明した。
- ・ブルーカーボン WG によるアマモに関する取組が複数予定されている。
- ・7月20日に、本日設置する網袋の開封・放流イベントを行う予定である。
- ・第37回協議会会議は、来年2月に実施予定。

【意見交換・質疑】

(委員) 年度末の協議会会議について、前は参加者数に対して会場が広く、議論等しにくかった印象である。また、コロナ前には委員皆で意見交換を行うワークショップを実施したこともあった。会場を小さめにし、会議の時間を午後にして長めに確保し、ワークショップなどを行うことで、より活発に意見交換できると良い。

- 午後の実施を検討する。

(委員) 今回、過去に水産大学校の学生にデザインしてもらった T シャツを発注し、一部の委員等へ販売した。ほかに購入希望者がいれば、追加で発注するので、お声かけいただきたい。今後、寄附付き商品として展開できないかと考えているが、希望者に一律に販売するのではなく、活動への参加回数に応じて購入権を与えるなど、活動への参加も促す活用方法ができると良い。

- 参加回数把握のルールなども含め、導入方法を検討できれば。

イ 2024 年度ふしの干潟いきもの募金支援対象活動について (資料 4-2: 事務局等)

- ・昨年度と同様に干潟再生活動、カブトガニ幼生生息調査・観察会、被覆網購入費を支援することに加え、各 WG が活用できるよう助成を行う。
- ・同じ機会に取組みを行うものは事業区分を分けず、ブルーカーボン WG の計画する事業を新たな区分として追加する。
- ・今後の募金の方針としては、寄附付き商品の展開及びふしの干潟募金サポーターのフォローや新規掘り起こし、募金活動の強化等により、収入確保を進め、自主財源での活動実施に努める。
- ・持続可能な里海づくり WG の活動については、船崎グループリーダーより説明。
 - 募金箱による募金活動に加え、新たな試みとして、ふしの干潟せんべいと干潟再生活動で使用する網袋をセットにした寄附付き商品の販売を行う。50 セット完売を目指すので、委員の皆様にもぜひ購入いただきたい。
- ・ブルーカーボン WG の活動については、山本グループリーダーより説明。
 - アマモ場の拡大を図るための調査及び一般向けのアマモ見学会を実施する。見学会については、本日配布したチラシのとおり、7月7日(日)に行う予定であり、本日の干潟再生活動の参加者にもチラシを配布し、参加者を募る。

【意見交換・質疑】

○資金確保について

(委員) 資金確保について、協力企業の確保することが大きいと考える。行政側ではできないところなので、民民での企業確保を進める必要がある。

(委員) 昨年度、協力企業であるあいおいニッセイ同和損保と伊藤園を県の「企業

ボランティア活動促進モデル事業所」に推薦し、モデル事業所に指定された。

両企業からは、社内でのアピールや部署を超えた交流など、ボランティアを通じたメリットの声が聞かれる。

協議会から企業に対し、企業の PR になるよう参加証を発行するなど、なるべくお金のかからない方法で企業にとってもメリットになることを行えば、協力企業も獲得しやすいのでは。

(委員) 岸に打ち上がるカブトガニの抜け殻は、一部の者にとっては非常に価値がある。何らかの形で販売し、活動資金に回せないか。

○ラムサール条約湿地登録について

(委員) ラムサール条約湿地の登録について、何か動きはあるか。

→ NPO 法人野鳥やまぐちの原田理事長から要望の声は聞いている。県自然保護課は、鳥獣保護区の指定の手続きに関与する。

(委員) 山口湾は鳥獣保護区に指定されたのでは。

→ 令和4年度に指定されている。(特別保護地区ではない)

(委員) ラムサール条約湿地の登録に関して、協議会として応援する必要があるか。

→ まずは、地元山口市の住民や自治体などが主体的に取り組むものとする。

ウ 本日の干潟再生活動について(資料4-3:環境保健センター 元永)

○経緯等

- ・被覆網の管理負担の増大や被覆網があってもアサリが増えない場所があることから、作業の効率化のため、稚貝を網袋で保護する方式を始めた。
- ・昨年度拡大試験を行い、網袋の破損等がなければ、効率的に稚貝を確保できることがわかったため、引き続き今年度も網袋方式を実施する。
- ・今年度4月の稚貝分布調査の結果、昨年度同時期より稚貝が多く、標高データとの比較で、標高-0.2m~-0.4mの地盤の低い場所に多い傾向が見られた。

○本日の動き

①網袋によるアサリ稚貝の保護・育成(網袋設置数増)

②干潟耕うん・カブトガニ産卵場造成

③被覆網の撤去・交換、アサリ調査

④生き物観察会

- ・網袋で保護した稚貝は7月20日に被覆網の下に放流する予定。
- ・干潟耕うんは、アサリ稚貝の少ない標高の高いエリアで行う。
- ・カブトガニ産卵場造成は、山本委員の提案により試行する。干潟の砂洲から護岸沿いに砂を運ぶ。
- ・作業終了後には、参加者に対しアンケートを実施する。